ニッポンの世界遺産 vol.8

平城遷都1300年祭に沸く「古都奈良の文化財」

春日大社一の鳥居から
御蓋山・春日山原始林を望む
（撮影者：矢野建彦）

平城宮跡の東の大極殿院と内裏（撮影者：矢野建彦）

奈良は、710年の平城京遷都から784年まで、日本の首都として政治・経済・文化の中心地として栄えました。

1998年に世界遺産に登録された「古都奈良の文化財」は、中国や朝鮮半島との交流を通じて、日本の国家や文化の基礎が整った重要な時代である奈良時代の文化を伝える市内８つの資産によって構成されています。

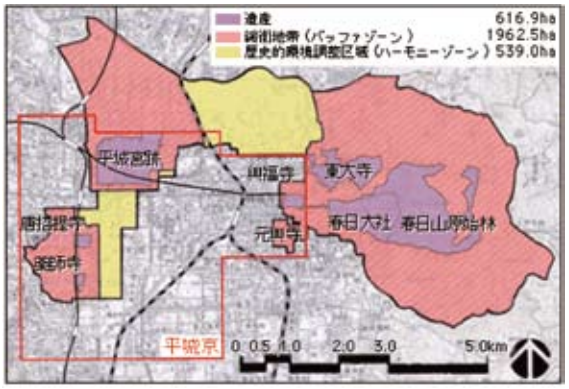
奈良時代以前の木造建造物は全国で奈良県にしか残っておらず、そのうち半分の14棟が奈良市内にあります。日本が手本とした中国や朝鮮半島では、当時の木造建造物のほとんどが失われており、これほど古い木造建造物がまとまって残っている例は世界でも他にありません。これらはその後の日本の建築の基本となったものです。

そして、日本ではじめて考古学的遺跡が世界遺産に加えられることになった平城宮跡があります。平城宮跡の地下に残る当時の宮殿や役所などの遺構は、ほぼ完全に保存されています。

このように日本を含む東アジアの古代の都のうち、宮殿の遺跡と都に計画的に建設された木造建造物群とによって当時の姿を伝えている例は他にありません。

また、春日大社の社殿周辺から御蓋山（みかさやま）・春日山にかけての一帯は古来聖域とされ、都市に隣接しながら特別天然記念物に指定されるほどの貴重な森林が現在まで保全されています。日本人の伝統的な自然観と信仰によって、社殿と自然の山や森とが一体となった景観が形成され、守られてきました。これも世界遺産「古都奈良の文化財」の大きな特徴です。

平成22年は、遷都1300年を記念して平城遷都1300年祭が行われています。メイン会場の特別史跡平城宮跡では、平城京で一番重要な建物である大極殿正殿が復元公開されるほか、さまざまな体験メニューや古代行事の再現もあり、平城京の歴史文化を体感できます。遣唐使船も復元展示されています。また、遷都1300年祭の期間中は「巡る奈良」と称し、県内各地でも奈良の歴史と魅力を生かした行事が行われます。古都奈良をまるごと楽しんでいただくには絶好の機会です。　（協力／奈良市教育委員会）



◇平城遷都1300年祭　基本データ
巡る奈良事業　期間：平成22年１月１日～12月31日
平城宮跡事業　期間：平成22年４月24日～11月７日

◇平城遷都1300年祭に関するイベント情報等についてのお問い合わせ先
平城遷都1300年祭コールセンター
電話番号　0742（25）2010
FAX番号　0742（20）0710
受付時間　８時30分～17時30分
受付期間　平成21年11月21日（土）～平成22年12月31日（金）
※開設期間中は無休